

平成 20 年 11 月 27 日

各 位

西日本シティ銀行

消費者動向調査 No.103 「冬のボーナス使いみち調査」

西日本シティ銀行(頭取 久保田 勇夫)は、消費者動向調査を定期的を実施しております。今般、「冬のボーナス使いみち調査」の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

記

調査結果要約

調査時期：平成 20 年 10 月
調査対象：福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人
(うち回答者 494 人、回答率 98.8%)

- ◆ **今年の冬のボーナス支給予想、昨年冬と比較して“少なくなる”が 11.1 ポイント増加。“多くなる”は 9.4 ポイント減少。**
1 年前の冬よりも、ボーナスが“少なくなる”と予想する割合が約 1 割増加。
(調査結果本文 2P)
- ◆ **冬のボーナスの使いみち予定、1 位は「貯蓄」で 53.0%。2 位は「子供の教育費」で 33.4%。**
冬のボーナスの支出予定 1 位は「貯蓄」の 53.0%で、平成 5 年夏の調査開始以来連続のトップ。
(調査結果本文 3P)
- ◆ **冬のボーナスを貯蓄する目的は「将来の生活費補てんのため」が 42.7%で 1 位。次いで「将来の教育費のため」が 35.0%で 2 位。**
日々の生活防衛が定着してきたのか、ボーナスの貯蓄目的は、生活費の補てんは減少し、教育費や住宅購入など将来の目的のための貯蓄が増えているようだ。
(調査結果本文 4P)
- ◆ **冬のボーナスを貯蓄する場合、「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が 45.9%で 1 位。**
「元本の安全性を重視したい」が 43.4%で 2 位。1 位の「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」と合わせ、約 9 割弱の人が安全性を重視。
(調査結果本文 5P)
- ◆ **関心がある金融商品は「預貯金」が 71.1%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 24.1%。3 位は「投資信託」で 16.2%。**
金融不安や株式市場の低迷、急激な為替変動が続くなか、平成 20 年夏に比べ「投資信託」が 5.2 ポイント、「外貨預金」が 12.1 ポイント減少。
(調査結果本文 6P)
- ◆ **冬のボーナス、自由に使える金額は、昨年冬に比べ夫は 4 千円、妻も 2 千円ダウン。**
ボーナスが減るとの予想が増加したのを受けてなのか、自由に使える金額も減少傾向のようだ。
(調査結果本文 7P)

[調査結果本文はこちら](#)

以 上

この調査に関するお問い合わせ先
広報文化部 堺 TEL092-461-1869